

1981年10月号

1981年10月5日発行（毎月1回5日発行）

No.64

あふあて

発行人
定価 100円

発行所 あんふあて出版部

振替口座

あんふあての会 電話

誕生 — おまえに

その時のわたしは完全体だった
おまえを育くむ海を抱え
別の時間を感じとり
おまえとともに一切をはじめるとい
予感を歩いていたので

海が育くむのは おまえという未来
いまだ誰という名もないおまえの
たゆたいがうちにあって
それに支配される時間は満たされていた

しかし不意に海がはじけた
その日
おまえはわたしを分離し
自分を切り離して
おまえ自身をうんだ
わたしは わたしに戻った

こちらの時間にやってきたおまえは
泣きわめき、のみ、おしっこするだけの
限界に開かれた
小さな不幸



これはまた何度くり返しても
なんとがっかりするドラマだろう

無数のおまえに分離され
裏切られつづける無数のわたし 母の連鎖

おまえはすでに未来でなく

予感でなく

宇宙でなく

ないないづくしの赤ん坊となって
こちらの時間に放り出されている

わたしはもう驚くばかり

大きな何ものかだったおまえに去られた
その空虚を

おまえはむきだしの赤い皮膚をみせて
裏切り続ける

ただの無防備な不幸となって泣いている

そう

おまえはもうひとりで歩きはじめている
誕生 おめでどう！

詩

（六月二十八日のミニコンサートで朗読）



あんふあんの目

やってみない？

職場でのあんふあんと



産前、産後、大きなお腹で、又は赤ん坊に乳を含ませながら、事務局でウロウロしていた頃。会員からのハガキの中に、「今度働き始めましたので、あんふあんと（共同保育）は必要になりました。子供は保育園に入れました。それで脱会致します」というのが、けっこうあったりするのです。それで何か変だな。と、思いつつ、スタッフのみんなも何となく「フーン」という感じだったりするのですが、なんで働き始めると、あんふあんとでなくなるのかなーと書いていたのです。私個人で言えば、その頃には、私はもうすっかり、あんふあんとになりきっていて（変な言い方かな）あんふあんとでいくんだ、自分自身を、自分自身の人生を、人間関係を、自分と地域、自分と家族、自分と社会の関係を創造し作り上げて行くんだ、自分自身で、としゃくしゃく思っていて、やっぱりそれは、一生続くことなんだと書いていたので、働き始めることで、なんで「サヨナラあんふあんと」なのか疑問に思っていたのです。

キャリアウーマン（変な言葉ですね）みたいな人は、あんまりいないとかいう面もあったりするんだけど、それは、それで、別にみんな専業主婦こそ女の鏡とか思ってるわけでもないし、子持ち女は家で子供を見ているべきだとか思ってるふうでもないし、働くことや自分の食いぶちは自分で稼ぐんだとか、お金がほしいんだとかそういうことにも充分関心があるんだと思うのです。

私も最初、働く前に、ひっかかっていたのは、「今の世の中、専業主婦こそ人間的であり、男と同じにアクセク働くのは、全然豊かに生きることじゃないし、かえって害悪たれ流し」という辺だった様に思います。

でもね、それだったら職場であんふあんとすればいいんじゃないかと段々思い始めたのです。地域の友達にあんふあんとを伝え合うのも、とてもおもしろいけど、男ばかりの男社会の、利潤追求、生産性第一の中であんふあんとしていくのは、もっとワクワクおもしろいと思っています。もうこれは、働き始めたからあんふあんとをやめます、なんてものじゃなくて、働き始めて、ますます、のめりこんでいくところなんです。でも実際問題として、金曜日のスタッフ会議には出られない、発送（金曜）にも行けないとか、物理的な問題は多々あるのですが、私の場合、日曜の会議には、月に一度位は出る様にすると、隔週土曜休みなので、情報紙の校正は、その時に行くとか、それもこれもできなければ、原稿位書いて郵送するとか、それも出来ない時でも、地域のアんふあんとで連絡はもちろん、子供を預け合うとか、相変わ

らず、きれいでいます。

でもね、職場でもあんふあんとでしていくんだってことは、本当におもしろいし大事な事だと思ふのです。第一彼らは、乳幼児を抱えて働いている女を今まで全然知らなかったりして、それだけでもカルチャーショックという感じで、おもしろい。私と今一緒に仕事をしている彼は、私と同じ一才児がいてつれあいが家で子供を見ているんだけど、最初、私のことを、育児放棄している、もしくは、子供を抱えて働かなければいけない可愛そうな人という目で見ていたのですが、ある時、彼のそういう言動が見え見えで私もちょっと頭に来ていて、子供を預けること、子持ち女が働くこと等についてしゃくしゃく話したりして、彼もだんだん偏見をなくして来たこの頃です。それで昼食の時は、お互いの子供の話、彼の奥さんが子供にウンザリしている話なんかし合ったり、いかにいまの世の中全体に、子育て、優しく小さいものへのいたわりの心がかけて、生産主義的か、それが人間の幸福につながるや否やなんてしゃくしゃく話したりしておもしろいな。と自分では思っています。

子供がいたって働きたいなら働けばいいと思う。共同保育、共同保育とがみつくとばかりが、あんふあんとですることではないと思う。もしそう思い込むならそれはかえって貧しさにつながるのだと思う。職場でだっでどこでだっで、あんふあんとでできるんだと思う。私達は、いつでも、どこでも、しゃくしゃく、しなやかに、強く、あんふあんとで続けて行きたいものだと思います。

（井上）

今年も来そう

就学時健診



秋風が立ち始めると、何処からともなく耳に入ってくる就健の話題。去年までは、ふんふんとわずきつも淡々として落ち着いていられたのですが、今年は、そうなんです。待ったなしで確実に我家にも配達されるであろう就健通知。その日は召集令状を受け取った母親の心境っていうのはちょっと飛躍のしすぎとは言え、のんびんだらりとした自由(?)な日々を送って来た息子にも否応なく、教育などという耳ざわりの良い傲慢な響きを持つ言葉に彩どられる抵抗しがたい日々が近づきつつある気配なのです。

義務教育という美名のもとに、今年も全国の子供たちが網の目に引っかけられ、ふるいにかけられてゆくであろう、。

一九七九年から養護学校義務化にともない障害のある子は養護学校へという政策が打ち出され、私達の生活する場といわゆる障害児と接する機会はほとんどなく、今までも子供達は、親たちが意識的に障害児の自主保育グループとの接触の場を作ってやらねばならぬと言うような、まったくもって不自然な成り行きでしか障害を持つ子とのふれあいはい不可

能で、子供達は、それこそ何の疑問も感じないままにすいすいと育っていつてしまう。

考えてみれば、何だか世の中おかしいよってなわけで、障害児のみより集まってるの自主(訓練)保育は各地域行政の音頭取りもあって見事という他はない在り様。普通(?)の子といえ、やれ幼児教育だってなわけで入園前から組織化のきざし。かくて物心ついた時から子供の二分化は整然と行なわれている。何となくうすら寒くなりませんか?・・・

私達が創り出した自主保育の場、ありんこでは、そういった状況を打ち破ろうと市内の障害児(軽度)の自主グループとの交流をしたいと以前からの願いで、ハイキングに出掛けました。そこで見られた子供達の当惑。その中でただひとりまるで当り前に自然に障害児ととけ込めたHちゃん。彼女は父親が重度の身心障害児の施設の職員であり、日常生活の中で彼らとのふれあいもあり、他の子は生活の場でまるでそういったチャンスが無かった、といえはそれまでの事なのですが、その事もあって一層物心つく頃からの生活の場の不自然さを強く感じました。

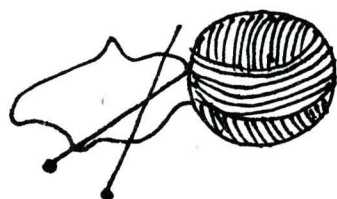
子供達が共に育ち合う事を阻んでいるのは、やはり大人社会。等しく生を受けた子供達を選別し、区分けしてゆくことの罪悪感を大人達ははっきりと認識し、能力至上主義が生む弱者切り捨て、ついて来れない者は置き去りにして行きますよ式思想を根底からゆるがして行くことも自主保育の場で問われてきたわけですが、これを受けついで行くのは就健への対応として当然の事。何も障害児だけの問題ではなく、日々異年令タテ割り集団に接し

て思うことは、子供達の中に自然にわき起ってくる仲間意識。これが少集団ではなく、もちろん障害のある子もない子も含めた大きな場でできたならスゴイなんと思うと、やはりひとつの区切りとして就健っていうのは拒否していくものだとは受け止めます。

昨年の就健を拒否した人の話を聞くにつけ、年々教育委員会等の風当りは強まっているらしい。あんふぁんてでも毎年くり返し紙上で取り上げ、昨年は、たとえば障害児教育の上映会もやり、皆で就健を考えて行こうと問題提起してきましたが、さてさて、入学して一段落したら又々次の就健とつぎの事なく続くわけです。教育の問題っていうのは、本当にどこから手をつけて良いのやら、考えただけでも頭が痛くなるのです。小学生を持つ会員が増えるにつれ、あんふぁんてでもじくくり取り組んで行く動きも年々強くなって行くでしょう。話を聞くだけで何だか楽しくなさそうな小学校。原因は?等と言ってみても、簡単に割り切れないほど複雑化してしまっただけ教育のゆがみ、出来れば入学さえも拒否したいと言っても、周辺はそのまま我が子だけ良ければいいのは鼻もちならぬ事ですすね。貴女は就教について、どう思いますか?とにかく年々、時期が早くなっている事ひとつ取っても何か見え見えだと思いませんか。(北山)



「グループ交流会」より



九月十三日、横浜市の共同保育「ありんこ」で交流会が開かれた。グループ交流会プラス来期案決定交流会。集まったのはスタッフも含めて十数名。遠くからやってきた人が多かった。簡単な自己紹介のあと、会場になったありんこの話から始まった。

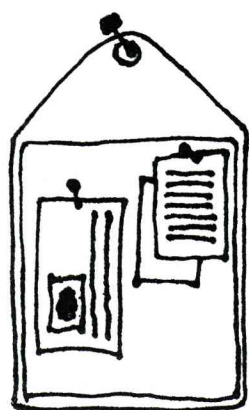
今、ありんこは専従の保育二人と週二日のメンバーによる当番制で毎日保育が行なわれている。時間は十時から五時。七時までというおそ番もある。メンバーの半分が一時間位かけてありんこまでやってくる。二十二人の子供達と十七人の大人。朝の時間が少しおそいという点を除いては、保育園そのものといった感じだ。そこでメンバーの中に働いている人はいのか聞いてみた。「週何日といった働き方はしているけど、フルタイムで働いている人はいない」(どうしてかな。)

「働きたいという人が出てきてほしい、働く人が出てこないというのがあるりんこの現状じゃないかと思う」

「共同保育と働くこと」このことはありんこに限らず共同保育をやっている人にとって少なからずぶつかる問題ではないだろうか。「フルタイムで働いている人からくらべたら余裕があるんじゃないかな？自分達の活動費ぐらい自分達の手でかせぎたいと思う。なにか夫の掌の上での動きにすぎないようで……」という問いが出された。「何が余裕かということや余裕があることが必ずしも後目たさにならないなど、いろいろな見方があると思うけれど、毎月一万いくらかの費用を共同保育の為にだせるということ、あるいは自分のくいぶちを稼ぐことなく自分にとっての生活を行なえるというのは、確かに余裕だろうな」その一方「なぜか今すぐにでも働きたいというせっぱつまった気持ちになれない。もう少し自分自身の気持ちをみつめてみたいとも思う。長い間共同保育をやっているわりに、自分の中の問題としてみえてこなかった。自分の気持ちがあふきれるまで時間をかけたい」

「頭でわかっていても体がついていかないってことはあるよね」ところで、さっきの「手のひらの中の活動」ということについてちょっと考えてみたい。たとえば、共同保育に限らず、その他自分の小遣いぐらいは自分で稼いだせば、その「手のひらの……」という感じからぬけでできるのだろうか。それとも自分の生活費として出せる収入があり、子供の養育費も含めて共通部分はお互いに出しあう、というような形をとればいいのか。一つの形態にしかすぎないのではなからうか？フルタイムで働いていたとしても「男の手のひら」と感じる人もいるだろうし、むしろそれを積極的に肯定する人もいるんじゃないかな。今流にいえば、経済的自立と精神的自立ということになるんだけど。金銭的裏づけと金銭的給付のない共同保育やその他の活動が果たして比較の対象になるものなのだろうか。しかしそうはいっても男が稼ぎ、女が消費の部分担っていくという図が存在するのは確かだ。いわゆる役割分業、男は外、女は内というあまりにも画一的な図式が続いていることは否めない。この中で、子供の手を取り共同保育に通う自分自身に疑問をもつ人がいても不思議はないと思う。むしろそういう疑問がおこってくるのが自然ではないだろうか。

※「共同保育とは何か」皆さんの意見をぜひ聞かせて下さい。



さて、働くことについてでもさほど結論めいたこともでなかったが時間はすでに四時をすぎ、来期案について話そうということになった。これまで話されてきた部分に、すでにあんふぁんての基本方針にあたる部分もあった。例えば、共同保育のことだけ、つまり子供だけの問題としてとらえるのではなく、女の問題として、家族の問題としてあるいはその周辺の問題も含めて考えていこうという部分。とくに共同保育周辺の問題として見逃せない問題としては、政策面での問題がでた。「『日本型福祉』『安あがり福祉』ということばに代表されるような地域コミュニティの担い手としての共同保育。地域での活動が行政の手抜き部分を補う、補うならまだいいが民間まかせにしようとする政策的意図にうまくのっかっていってしまう危険性をどうとらえていくか。このような問題をとらえていってこそ、運動体としてのあんふぁんてじゃないだろうか。」「それから、マスコミにのるのは一年間やめておこうというものもあった。この点についてはどうだろうか。」「今まで、クロワッサンなどを読んで会員になった人が結構いると思うけど、この一年会員の数の変動はどうだった?」「意外にね、トータルでいえば増えているのよね。くちこみで、確実に。」「ウチのグループでもこの一年間にくちこみではいってそれまでの倍になっている。」「あんふぁんてを伝えることはむずかしいけれど、それでもその人なりのあんふぁんてを伝えていこう。マスコミにのるのは来期もやめておこうということになった。」「ところで先月号に『あんふぁんては平型』

とあったけど?」「そう、普通の団体とか組織って必ずといっていいほど、上部と下部あるいは本部と支部というピラミッド型の組織図になる。ところがあんふぁんてはそうじゃない。それぞれの会員がそれぞれの活動の主体になるんだから、あんふぁんてのスタッフがあるいは事務局が上部や本部の役目をはたしようがない。会員とスタッフとの関係には依存関係はない。このことは今までに何度となく繰り返し伝えてきてはいるけど……」

「これが来期案です」とはでないが、原則的な考え方については話し合えたのではないかなと思う。交流会にはでなかったが、これまでのあんふぁんてを考え、これからの活動への展望をだすための総括作業については引き続き行なわれる。

七年目のあんふぁんて、時代の流れをみさえひとりひとりの活動を大事にしていきたい。

(色川)

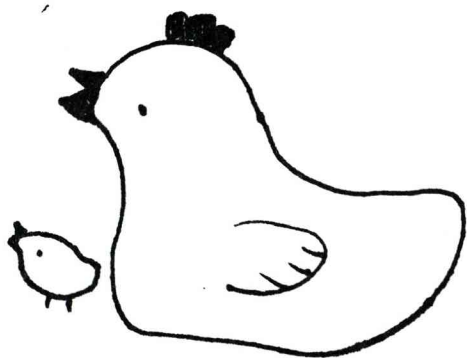
《アンケートに答えて》

会員の皆さんからのアンケートを読んでいる、少々気になったことがあります。あんふぁんてに望むことについて項目はただけど、「育児期を卒業したスタッフの記事は、少々ピンとはずれに思えることもある」とありますが、この育児期卒業ってというのはどのような想定のもとに生れるのでしょうか。ほとんどのスタッフは子持ちでし、それに卒業という言葉そのように使う事に疑問を感じます。ピンとはずれとは思えるのは具体的にどのような事なのかぜひ聞かせて下さいな。

又、記事を書いている人の背景が分らないという意見もありますが、スタッフは特別な背景などない、普通の女です。(正直言ってこの背景とは何だろうと考えてしまった。)

子育てまっ最中であり、雑事に追われ、ある人は仕事、地域活動すべてひっくるめてあんふぁんてにかかわっています。事務局に通ってくる人達は、近い人で一時間、一時間三十分ってのはザラで、二時間という人もいます。です。思うんですけどこの「あんふぁんてに望むこと」というのは、あんふぁんての字を自分に置きかえてみたら、何かはつきり見えてくれないでしょうか。少々きつい言い方かもしれませんが、あんふぁんてってというのはもちろん貴女を含めて動いているものだという事を認識してほしいと思うのです。

皆さんからの意見待っています。(北山)



グループのページ

ねこじゃら会パートⅡ

その2

父親会の座談会より



父親達の子供の頃にはまだ自然があった。悪い友達がいち、こわいおじさんがいた。これら人々の周りに当然あるべきことが失われつつある今、野性的かつけじめをつけて生きてくれよ——と願って、ねこじゃら会。父親達はたまに子供達の集団と接するのである。(飲み会の方は定期的に行なわれているが)子供達と日常的に接している母親達をこれまで側面からしか見ていなかったのが、全面的に見えるようになり、さらに不足を補う形として父親会があれば、これほど素晴らしいことはないであろう。そのへんを具体的に述べてもらうことにしよう。

* * *

まず、何故父親会に参加したかについて、多くの父親は最初の大山ハイキングの時に女房に行け行けと尻をたたかれ、中には「お父さんが行かないのは家の子だけよ、あなたかわいそうでしょ」などとおどされ、自主的に参加した人は一人で仕方なく行った人は九人だった。その一人にしても、「第一に運動不足解消。第二に職場の関係しれない自分にとって、ねこじゃら会は全く利害関係が無い

個の集りである。第三に人の子をおこれる」と第三を除いては個人的立場で参加しているのである。ハイキングが終わったあと、ほとんどの父親はこれでおしまいかなと思ったという。御苦勞さんでしたと母親達が子供を受け取り、父親達を飲みに行かせたのが良かったのか、そこで子育て論などに花が咲き、次はキャンプに連れて行こうということになった。そのキャンプも本当に行けるかどうか半信半疑であったが、力を入れる人があったのと、何度か飲み会を重ねることによってお互いに気心が知れるようになり、第二回目はキャンプにはまだ早いからと五月の連休後には半数以上の海行きが実現したのである。

複数の父親が集まることの意義について、どの父親も先の方が述べたように、全く利害関係が無く本音で話せるのがよいと言う。要するに意義など大それたことを言う前に、横丁のクマさん八っあが集まるのと同じ楽しさがあるのだろう。男の世界などは広いようであく、付き合いなどは限られているから父親会によって地域的な紐がりの重大性を認識したという人もいる。中心的に動いた父親は、「奥さん同志の中で生まれた連体感が父親達の中でも生まれるかどうか疑問だったが、最初に連れて行った山行で、子供達が非常に喜び、今までのねこじゃらの中で一番楽しかったなどと言ってくれたので、男達はワッ」と嬉しくなって、さあ次はどこへ行こうということになった」と語る。

最後に父親会として複数の子供達と何度か活動を共にし、自分達の子育て論は変わったかどうか聞いてみた。ある人は、「これまで子

供が近寄って来た場合身がまえてしまいどう対応したらいいかわからなかったが、キャンプに行ったら自分の子供より他人の子が可愛いと思えた」と言い、ある父親は、「子供はほっておけばよい、自分の仕末は自分でする、小さい子の世話は大い子がする。親がなんているかと言えは、子供が予知出来ない危険から救ってやることのみ」だと言う。「ねこじゃらの中で人の子を怒れることはいいことだ。子供達は他人から殴られることによって、どうして殴られたか考えるだろう」という人もいる。これらの発言から考えて、ねこじゃらの父親達は本質的に子育て論は変わっていない。もともとあった子育て論を十分に発揮出来る場がそこにあったにすぎないのだろう。

「特別なことをやっているのではない、どこの父親でもチャンスがあればやるであろうし、そこらの子供十人連れて行っても同じように活動するであろう」とも言う。

男は外で働き、女は子育てをするという日本の典型的な図式がある。日常的に保育している母親達と、たまに子供達を連れ出して好きなようにやらせ点数をかせいでいる父親達と、ねこじゃら会もこの図式の中にくみ込まれてしまっているかもしれないが、今後はこの図式からいかに抜け出していくかが両者の課題であろう。ちなみに、年休をとって保育当番をしてもいいと言っている父親もいるという。又、十月十日に羽根木公園で開かれる身障者も地域の人も含めた「雑居まつり」に、母親達も父親達もそれぞれ別々に参加しようと呼びかけている。

△出産アンケート中間報告 その2▽

もっと浮上して誌上にも姿をあらわさなきゃいけないと言われてて、やっと一段落したのでソロソロ浮上し始めますよ。

集計は三谷、原、鈴木、竹村、大島、秋元、古知、大山、織茂の八名で何十件分かず分担し、質問番号の1/26、27/43、44/75、76/100、と少しずつ集計しては話し合い、二週間後ぐらい置きに進めてきました。さて、これからどうやって進めようか。作業的には

- 各人の集計の総計
 - 主なテーマ・ポイントをひろう
 - 情報誌へ載せていく
 - 資料あつめ
 - 追跡調査などの補い
 - 別冊づくり などがあるのです。
- 九月18日給には話し合い、集計をやって、ひっかるところ、興味が強くあって、話が盛り上がり止まらなくなるところ、重要だと思ふことなどを整理して、テーマ・ポイントをひろってみました。
- a産もうと決めた動機や方法
 - b働くことと出産
 - c妊娠中の異常
 - ①流産・早産
 - ②前置胎盤など
 - ③妊娠中毒症
 - ④つわりはどうしておきるか
 - d人工陣痛・陣痛促進剤
 - eラマーズ法
 - ①呼吸法としての
 - ②自然分娩

- ③自立した出産としての
- ④マスコミの力に流されずに、自分たちの運動としていくには

f 分娩

- ①会陰切開
- ②自然分娩とは
- ③自宅分娩・病院分娩・助産院分娩
- ④帝王切開
- ⑤吸引・鉗子・麻酔など
- ⑥痛みの感じ方の違い
- g 後産
- h 新生児
- ①新生児異常のデータ・ケース
- ②出産とその後の子どもの健康の関係
- ③出産とその後の子どもの健康の関係
- i 男の子・女の子
- j 母乳・授乳
- k 病院の体制あれこれ
- l 子宮収縮剤
- m 産後の情緒不安定
- n つれあいの協力
- o 高年令出産
- p 不妊症・排卵誘発剤
- q 外国の出産
- r 出産の歴史

私たちはつまりは、いいお産を、少しでもいいお産を、納得したお産を、お産によってそのあとの関係や生活をも新しく創り出せるような「あんふぁんて」(仏語で出産するということば)を、これからの出産を考えたいのです。(古知)

からだのおしゃべり 新型ベッサリーの話



ベッサリーを知らない人は、「女のからだ合同出版など見て、古い型を見て下さい。新型のベッサリーは、麦わら帽子の真中がボコッと飛び出しています。大きさはフリーサイズなので、受胎指導員による挿入指導がありません。

新型が何故麦わら帽子型かというと、ボコッと飛び出している所に、子宮頸部を入れるんです。旧型を使っていた時は、ベッサリーの中にある子宮頸部がさわっていてもよく解らず、ずれているんじゃないかって心配だったけど、新型は、はつきりベッサリーでおいわれている状態が解かるし、使用感も旧型より小さいので(私の場合)まったく入れているという感じがしなくて、満足しています。私がベッサリーを使い始めたのは、夫と話し合って、一番いい方法と思ったのですけど、なんとなくベッサリーを入れるタイミングが問題で、寝る事が儀式めいちゃう。行為中の使用感、夫の方もベッサリーの有る事は解かるけれど、異物感もなく満足しているみたい。

ねだんは三千円前後です。市販はしていません。詳しくは情報コーナーの話を参照して下さい。(室田)

反戦あんふあんて

- 8 1. 9. 1 体験記 -



朝八時、けたたましいサイレンが鳴る。「こちら……区役所です」通勤途上の人たちの顔ぶれがいつもと違う。消防団・自警団のはっぱを着て、町の角ごとに数を増しながら歩くグループに、四谷へ出るまでに三つほど出合う。白いかっぱを着つけた女の人たちがその後を追いつく。

九時、またサイレン。「……警戒警報が発令されました」区役所のアナウンスがしっかりと町の隅々に鳴り渡る。

十時、学校からの緊急連絡網で二期の始業式に登校した子をひきとりに来いと電話連絡が入る。我が子を迎えに急ぐ女親たちの列。道筋の公園には町内中の専業主婦が集まり、何かを囲んで輪をつくっている。

三時、学童クラブから子どもをひきとりに来いと緊急連絡電話。

四時、保育園からの緊急連絡電話が入る。保育園に着くと、オムズビみたいに集められて防災頭布のため汗まみれになった子どもの回りを、ハンカチ落しみたいに先生たちが座り、ヘルメットの下はタオル、肩から斜めにかけた袋といういでたち。

こうして残暑の一日をかけた「予想大震災訓練」は終わった。ああ「国民総動員訓練」。九月一日以前には、マスコミは「警報放送実験」を行っている。偶然、私が見たのはNTV三月二七日深夜放映が終わってかなりたったころ、つまり、百パーセントに近い人がスイッチを切っている時間だった。他にもいろいろやっているんだろう。

学童クラブに勤務する人は、自宅に一番近い公教育施設に、徒歩何分で集まれるか、小学校の先生たちは、突然の呼び出しで勤務校まで何分で行き着くかを実施、たき出し「訓練」をしている。

九月一日のあとには、中学校の生徒が「訓練日」に徒歩何分で自宅まで帰ったか調査されている。

官公庁関係はさらに徹底している。官報指導により「自衛班」カードが作られ、ひにちさえ記入すればどの班の誰が何を分担するかが組まれている。職場では「自主防衛班」が組織され、「自主防衛服」に腕章のいでたちが、「昔を思い出しようで身がひきしまるヨ」と先輩男性を満悦させ、単調な仕事にあいた楽しみと青年男性を喜々とさせている。

五、六年前だろうが、北海道地震のとき、東京の揺れもすごかった。近所中が外へ飛びだした。「また揺れが来るかしら？」と不安がる人の言葉に、彼女が子どもを抱いていないことに気がついた。産まれてまもない子が家の中にいても、いきなりくる災害には、自分の身ひとつを守るので精一杯になる。子どもをひっかかえて、外に飛び出したところで

「安全な」避難場所までたどりつけるかどうかはわかりやしない。

仙台地震のときは落ちついてた。「火の元」「逃げ口確保」それに自分の心臓の動悸の確認。もっとも東京にいての仙台地震ではあるけれど、災害訓練にはなった。自分がどんなに不安になり、頭がからっぽになっっているか、よく観察できた。

いったい今年の「国」をあげての「災害訓練」とは何なのだろう。「ぐらっときたら火の始末」はどこに行っちゃったんだろう。

それにしても、消防団・自警団のはっぱ、自主防衛服、ヘルメットというように役割ごとの制服集団の異様さの中で、女の制服は唯一、白いかっぱを着だった。まるで突如として現われたかのような、タンスの奥深くに眠っている母のあのかっぱを着が、しっかりと集団で歩いているのだ。新宿だけじゃない、和光市でもかっぱ着軍団は現われている。女にとって、白いかっぱ着という制服はどんな意味をもっているんだろうか。どんな役割を女に持たせているんだろうか。

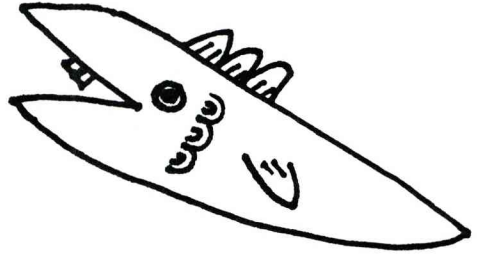
(山田)



小学生のための性教育

「ぼくの体、わたしの体」

を見て



最近、六才の長男が「赤ちゃんはどうやって生まれてくるの?」とききました。親類の家に行った時、もうすぐ出産する女性に会ったからだと思います。私は少し困りました。「ちゃんと・ごまかさないと・はぐらかさないで」話さなければと思ってはいるのですがそれがどうも具体的に私の口から出てこないのです。妊娠・出産の体験者であるにはちがいないのですが、そのプロセスがちゃんとわかっているかと言えばあやふやで、まして「六才の息子に説明」となると逃げたい気持ちにもなるのです。「今度あんふぁんてに行ったらよく勉強してきてそれから教えてあげるからね」と言いました。スタッフが集った時この話をしたら大笑いになりましたけど……。女の赤ちゃんのおしめを換える時に腔を見せて「ここから」と教えた人もいたのですが、わが家は二人とも男の子です。こんな時、小学生用のフィルムを見るチャ

ンスに恵まれたので、ぜひにと思っていいたらナントこの文章を書くことにもなっていました。

十七分のフィルムを見終って……「ずいぶんサラサラと過ぎちゃったなあ」という感じ。息子も私も見えないより見た方がずーっとよかったとは思いますが、でもこれさえ見ればもう充分とは言えません。

男の体の説明で器官の名前がどんどん出てくるのですが、子どもの立場では、何が何やらわからないのではないかしら。「ペニス」と「オチンチン」が同じものと思いつくまもないのです。それから性器と排泄器との違いも説明してほしかった。息子は精子がたまっていくアニメを見て「あれオシッコなの?」と質問した。

女の体の場合、両脚を開いた間の図がまず出てくるのですが、これが具体的にどの部分かわかるかな……?

おとなが子どもに一方的に説明して、それに対する子どもの問いかけが全くない構成なのです。

女の体の中の赤ちゃんがだんだん大きくなるアニメが出てきて、それが何と「ビョン」と体の外に出てしまうのにはもうガッカリ。長時間の陣痛やら出血やらをそのままリアルにとは言わないまでも、せめて「産道を通して」というところぐらい表現してほしかったのです。

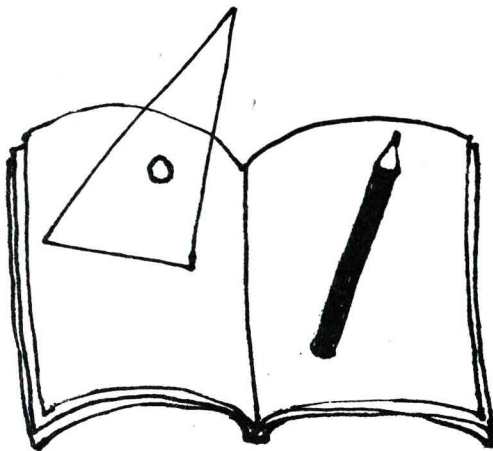
男の体の中の精子と女の体の中の卵子がいっしょになる性交のイラストについて体のことだけでなくその時の「人間の気持ち」に全

くふれられてないのが、これを見たおとなみんなの不満でした。

この日、「ピリオド」という本も買いました。男の体のしくみや生理もこんな風に表現して同じ一冊の本にしたらいなと思いましたが。男の子も女の子もいっしょに見る素直な性の本が出来たらどんなにいいでしょう。

とにかく、「性教育」というのはもう手ざぐりなのですね。「教育」だって同じことなのだけれど。百年くらい前の欧米に追いつけ追いこせ、モデルは確として存在した時がうらやましいくらい。だけど価値観を自らさがり出して、それを子どもに伝える事のほうが、くたびれてもたいへんでも人間的であり、「自由」の名に値すると思うのです。

(加藤)



あんふ あんて
から
あんふ あんてへ



山梨県

私は、一九六〇年代末に学生でした。六〇年安保を語りながら、七〇年にむけて語りあい、反戦について、大学の意味・学問の意義について自分自身に、友に、問いかけました。東京の激しい学生のうずを感じながら、田舎町でもデモが何回も行なわれました。皆が、何かに夢中で、安保をやめさせなければいけない、原潜を佐世保に寄港させてはいけないと、デモやビラで体あたりに表現しようとしていました。そのころのことは、私がいうより、多くの共通体験としてあると思います。それが、あれから十年たち、愛国心、防衛費増大、教科書改定、核など、一つ一つあげるとおそろしいことがたやすく、大きく語られています。

あんなふうに、ひそやかに語られていたことが公前化しても誰も騒ぎません。これが十年前だったのだったのでしょか。

私たち夫婦は、三年前より、無農薬・有機肥料による農業をはじめました。食うことを自給することで、誰からも自由で、また誰をも束縛しないで生きたい。

百姓という仕事の広がりななかで、老若男女誰でも自分の仕事をみつけれ、生きられる解放された空間をつくりたい。そう願っています。

私は思うのです。今こそ一人一人の点を有機的に結びつけていかなければならない。それぞれが、それぞれの場でできることをしたり、参加していくことも大切です。でも、点を線にして大きく円を描くことがいつか力になると思います。だれもが、力をあわせてたのしくくらしい。戦争はいやです。



原稿はいつでも募集中

あんふ あんては、子持ち女達の運、体であり、又、自己表現の場、もあると、私は思っています。日頃思いつくこと、つれづれなるままに書いてみませんか。

近くに会員がいなくて、あんふ あんて出来ない、なんて言っていないで、せめて清原紙の上でもあんふ あんてしてみませんか。

原稿待ってます！

井

図書コーナー

各国「女性」事情 樋口恵子 編者

学陽書房 千円

小平市

アメリカ、スウェーデン、中国等七ヶ国の女性像が、かなり具体的にえがかれている。データもいくつかとあけて、今までのとは少し趣きの異った女性事情である。各国に共通しているのは、家事、育児は女、という事である。これは共産圏も同じである。主婦であることと働くこと。これは各国どこもかなりきびしい実情であるが、しかし何と彼女達はエネルギーに働いているのか。どここの国も保育や家事の問題がすべて解決されているわけではない。しかしその中で、既婚でも働くことが普通のこととされておき、悩みや矛盾がありながら彼女達は生きていく。それに反して、専業主婦という特権の座に甘えることを許されている日本女性は果たして生きているといえるのだろうか。スウェーデンまでの道のりは遠く果てしなく思えてくる。変るべきはまず我々の意識のようである。



事務局から

●「ルルル、ルルル」「はい、あんふぁんてでございます。」「あのう、ちょっと伺いますけど○○方面にグループはありますか?」「はい、緊急な御用でしたらすぐ調べますが……」という調子の電話応対がこちらでは一番多いのです。気になるのはこちらが「恐れ入りますがどちら様でしょうか?」ときくまで名乗って下さらないことです。なかには「○○区の方です」で終わってしまうことも。ダイヤルサービスじゃないんですよ。毎日、電話番していると一回きりの電話の相手にだっていい出会いを期待してることもあるんですよ。時には疲れてそっけない応対になってしまうかも知れないけど、それは私も気をつけます。あんふぁんてでは○○ちゃんのお母さんではない○○野○子という自分自身としての付き合いができるからいいって皆さんもおっしゃっているじゃないですか。とにかく一般常識としてもお名前をきかせて下さいな。

スケジュールメモ

10月4日 十一月号企画会議
10月15日 休 ひとたぼっこの会
10月23日 休 体の会
10月23日 休 十一月号投稿メロ
10月25日 休 編集会議
11月6日 休 十一月号発送

スタッフから

●創刊からの会員で、グループ活動もしてきました。今更スタッフなんてと迷いました。でも、今迄、いろいろな女達と出逢い、語り、刺激され、助言され、勇気と自信を与えてくれたのもあんふぁんてで知り逢った人達です。私もなんらかのかたちで手助けできたらと思ひ参加しました。よろしく。(橋)

●あんふぁんてとのつき合いも、もう六年になります。その間、出産、育児、そして離婚と続いた慌ただしさの中で、生きる「ヒント」とようなものをこの情報紙のページをめくる事によって与えられて来たような気がします。"そうか" こういう見方・考え方もあるのだなあ、という幾何の難題が解けた時のような、さわやかさ、愉しさがあんふぁんてにはある、と思うのですが、さてあなたはどうか?!

●あんふぁんてを知ったのは一月、二月入会。入会したら色々ふっきて活動してみようかなって想っている。情報誌を読んでみるだけでも楽しいけど、自分で動くのもっと楽しい。まあまあ子供二人(上四才下一才七ヶ月)と、ぼちぼち参加していきましょう。(牧田)

●久し振りに編集担当しまして、わいわいガヤガヤ、時には脱線しながらという雰囲気ってやっぱりあんふぁんてならではのものだなあと思いました。はりきりついでにイラストなんども絵いてみました。(北山)

★入会申し込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛先は表紙上段に記載されています。
★参加費は一カ月四百円。なるべく六カ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に記載してあります。特に未納の方は至急払い込みを。休会・退会も必ず連絡を。
★事務局の電話受付は原則として月・金曜の11時〜3時です。御協力を。